

8月20日(木) @Ntcc 祈禱会 原稿 能城一郎

タイトル： とりなす

聖書箇所：エペソ 6章18節

祈禱課題

兄弟姉妹の為にとりなしの祈りを致しましょう。

新改訳 エペ 6:18
あらゆる祈りと願いによって、
どんなときにも御霊によって祈りなさい。
そのために、目を覚ましていて、
すべての聖徒のために、
忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

今日も皆様とご一緒に聖書を学び、お祈りが出来ることを感謝申し上げます。

今日のタイトルは、「とりなす」¹と致しました。

聖書箇所は、エペソ人への手紙の6章18節です。

最初に、エペソ書6章18節をお読みします。

【新改訳 2017】

Eph 6:18 あらゆる祈りと願いによって、

どんなときにも御霊によって祈りなさい。

そのために、目を覚ましていて、

すべての聖徒のために、

忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

ここには、「とりなす」ということばは、ありません。「御霊によって祈りなさい」とだけ記されています。今日は、「とりなす」について、学びと思います。

新約聖書のロマ書8章には、「とりなす」が、3回登場します。最初は、26節です。

【新改訳 2017】

ロマ 8:26 同じように御霊も、

弱い私たちを助けてくださいます。

私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、

御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。

ロマ 8:27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。

なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。

ロマ 8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。

死んでくださった方、いや、

よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、

しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

26 節と 27 節から分かる事は、(1)「弱さを覚える聖徒のために、御霊が神の御心に従ってとりなしをして下さる」こと。(2) また、それは、「御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって」とありますから、身体で感じる事ができる経験ということです。(パウロが書いている「御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって」の証をし始めると、わたしの場合、話が止まらなくなりますので、今日は、いたしません。)

34 節では、「弱さを覚える聖徒のために、御霊が神の御心に従ってとりなしをして下さる」ことと関連して、その背後に、イエス様の姿、－ 神の右の座に着き － を、パウロは見ています。

パウロは、エペソ 6 : 18 で、「御霊によって祈りなさい。すべての聖徒のために！」と記しています。エペソ書やその他のパウロの書簡は、手書きでコピーされ、当時の教会へ回覧されました。まだ、ロマ書は、現在の様に皆が読めたわけではありません。

「とりなし」の意味の共有情報ⁱⁱが、初代教会にはありませんでした。しかし、御霊の働きが確かにあり、「とりなしの祈り」の経験は、初代教会のホット共有情報となっていました。その美しい経験は、証しとなり広まりました。その良い例が、エペソ 6 : 19 です。

【新改訳 2017】エペ

6:19 また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、祈ってください

パウロは、自分の使命達成のために、神の力が必要でした、ある弱さを覚えていました。パウロは、ロマ書 8 章にある「とりなしの祈り」の大切さを一番よく知っていた人物ですから、エペソの教会の人々に、わたしのためにも、「御霊によって祈ってほしい」と願い出ています。

「とりなしの祈り」は、弱さを覚える聖徒たちだけではなく、国の指導者に向けても行うことを日常にするように、愛弟子のテモテに命じています。

I テモ 2:1 そこで、私は何よりもまず勧めます。
すべての人のために、
王たちと高い地位にあるすべての人のために
願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。

テモテ第1の手紙の2章1節の「とりなし」の原語は、ロマ書8章とは違う特別な言葉が使われています。それは、「王侯、貴族階級の人々に近寄り、何かをお願いする」時の心理的状况を表しています。愛弟子テモテは、少し臆病な性格でした。パウロは、この特別な言葉（エン・テュ-キス）ⁱⁱⁱを使って、何を愛弟子に伝えたかったのでしょうか。パウロの心の声を、わたくしなりに、旧ツイッターの文字数（140）で通訳すると「テモテよ。世の権力者の背後には、創造主なる神がいるのだ。君はこの神に完全に守られている。育ちの善い権力者たちも皆、弱い人間なのだ。彼らの前に行き、救いの証をする機会が訪れるかもしれない。そのビジョンをもって祈り続けなさい。聖霊の喜びで満たされていなさい！」となります。

最後に、「御霊によるとりなしの祈りに必要な武具」についてお話をします。

【新共同訳】

イザ 59:17 主は恵みの御業を鎧としてまとい
救いを兜としてかぶり、・・・。

【NIV】

Isa 59:17 He put on righteousness as his breastplate,
and the helmet of salvation on his head;...

「breastplate（胸当）」と「the helmet of salvation（兜）」は、今日の聖書箇所の前節、エペソ6:17に、パウロが引用しています。

エペソ

6:17 救いのかぶとをかぶり、
御霊の剣、

すなわち神のことばを取りなさい。

6:18 あらゆる祈りと願いによって、
どんなときにも御霊によって祈りなさい。

そのために、目を覚ましていて、

すべての聖徒のために、

忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

6:19 また、私のためにも、

私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、

福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

今日も共に、「救いの喜びをもって」、「みことばに導かれて」、そして、「御霊によって」お祈りの
時を持ってまいりましょう。

ⁱ ὑπερευαγγελλῶ (<ὑπέρ, 代って, εὐαγγελλῶ, 執り成す) とりなす (執り成す), とりなしをする,
代理嘆願する。*ロマ8:27.34、11:2、ヘブル7:25

ⁱⁱ 八木誠一 『<はたらく神>の神学』、岩波書店、2012年。

ⁱⁱⁱ ἐντυγχάνω (<ἐν, τυγχάνω, 遭遇する) (ア ἐνέτυχον) ①会う, 会見する, 会談する. ②請願する,
嘆願する, 願い出る; ὑπέρ+奪格, ~のために執り成す (=ὑπερευαγγελλῶ). ③訴え出る; κατὰ+属格, ~に
反対して.